

地球

昭和三年
六月
第九卷

地球 第九卷 總目錄 昭和三年一月—六月 (アラビヤ數字は號數を示す)

圖 版

- 第一版 蘇國ウキトビー寺院とモアーランド中の道路……………(第一號)
- 第二版 蘇國マリシヤル大學とアバチーン港……………(第二號)
- 第三版 信州横川峽の梯狀脈蛇石……………(第三號)
- 第四版 本邦三疊紀産アンモナイト……………(第四號)
- 第五版 奥丹後地震被害分布圖……………(第五號)
- 第六版 隱岐島前地質略圖……………(第六號)
2. 1. 居住地理學の問題としての日本住宅(藤田文學士の日本民家史)……………(第六號) 上 小川 琢治……………全
1. 北上山地の南端部、牡鹿半島の岩石節理の研究(一)……………(第六號) 下 矢部 長克……………全
2. 1. 静岡縣掛川町近傍の地質に就きて(一)……………(第六號) 横山 次郎……………三〇
1. 四國佐川盆地産アンモナイトに就きて……………(第六號) 清水 三郎……………三
1. 若狹灣一部の隆起現象に就きて……………(第六號) 上治寅次郎……………三
2. 1. 1. 空道湖の鹹度問題(四)……………(第六號) 小牧 實繁……………三
2. 1. 1. 地球軌道の離心率……………(第六號) 隈 雅 以……………三
1. 北東シベリアに於ける大山脈(チエルスキー山脈)の發見……………(第六號) (オブルチエフ)……………三

654321.

西遊夢錄

(四) (三) (二) (一) (九八)

瀧川 規一

(六) (五) (四) (三) (二) (一) (九) (八) (六) (四)

2. 北日本の火山帯

大橋 良一

二八

2. 鳥取縣日野川下流水路の變遷

石川 成章

二六

2. 福岡地方の地理的事實

金尾 宗平

二五

3. 北支那先史時代の人類に就きて

小川 琢治

二四

3. 信州横川峽の梯狀脈蛇石に就きて

入木 貞助

二九

3. 四國に於ける上部白堊紀層の分布と構造線に就きて

江原 眞伍

二八

3. 花崗鑛山の硅鑛中に含まるゝ火山彈

大橋 良一

二九

4. 3. 北日本の聚落(一)

西龜 正夫

二五

3. 磐城石川附近風土雜記

菅谷 泰昌

二九

4. 人文地理學の一科としての政治地理學

小川 琢治

二五

4. 三宅島火山噴出物の研究(二)

神津 俶祐

二四

6. 5. 4. 信濃中部第三紀層の分類(一)

本間不二男

二五

4. 本邦三疊紀産アンモナイトに就きて

清水 三郎

二七

5. 政治學者の觀たる國家(一)

小川 琢治

二七

三三

5. 温度の變化に因る黒雲母の屈折率及光軸角の變化……………

神津 俣祐…………… 五〇
吉本 文平…………… 五〇

5. 安政及寶永大地震の震源に就て(序報)……………

中村左衛門太郎…………… 五〇

6. 5. 隱岐島前群島に於けるアルカリ粗面岩々脈に就きて(三)

下間 忠夫…………… 五〇

5. 奥丹後地震被害分布圖説明書……………

本間不二男…………… 五〇

5. 長崎市の生産概況……………

森 壽美衛…………… 五〇

6. 甲斐國佐野産透輝石の光學性質及温度に對する容積の變化……………

神津 俣祐…………… 四九
瀬戸 國勝…………… 四九
上田 潤…………… 四九

6. 長石類の微細構造に就きて(エー・シーホルト)……………

高根勝利譯…………… 四九

6. 飛驒山脈に於ける構造土の新紹介……………

西村 健二…………… 四九

講話

6.543-1. 石油地質學概要……………

大村 一藏…………… 四〇
三二 三一 三〇 二九 二八 二七 二六 二五 二四 二三 二二 二一 二〇 一九 一八 一七 一六 一五 一四 一三 一二 一一 一〇 〇九 〇八 〇七 〇六 〇五 〇四 〇三 〇二 〇一 〇〇

摘録

1. 牧野、カツダール主義…………… 七〇

2. 森、濟州島及對馬の動物分布の狀を考察して内鮮兩陸分離の時代と其の時代の狀態とを推論す…………… 二五

3. 双生地震の研究(Journal of Geology)…………… 三四

4. 種々なる岩石の物理性測定の結果(内務土木報告九)…………… 三〇

新著紹介

1. 構造地質學講話…………… 八〇

2. 家藏日本地誌目錄…………… 八〇

1. 地理學雜誌	一八一	1. 若狹三方湖畔の天然瓦斯	一八一
2. 古風土記逸文	一八二	1. 支那の製粉業	一八二
3. Richard Ambronn	一八三	1. 米國冷蔵船の東洋來	一八三
Methoden der angewandten Geophysik, 1926.	一八三	1. 石油の世界産額増加	一八三
3. R. H. Rastall: Physico-Chemical Geology, 1927.	一八四	1. エチオピアと日本綿布	一八三
3. 地質學提要	一八六	1. モンテヴェイデオ市	一八四
3. 地と其律動	一八六	1. 鐵道工事に於ける事故並其處置方法の實例	一八四
3. 山之古奈太	一八七	2. 日本海溝の形	一八七
3. 鮮滿支素見	一八九	2. テーリー Our Mobile Earth 本間譯を讀む	一八九
3. 地理教材研究第十一輯	一九〇	2. 東海道福岡	一九六
4. 秋田縣の鑛物界	一九一	2. タピオカ	一九六
4. 鑛物岩石鑑定要覽	一九二	2. 加州の果實	一九七
4. 中華民國地誌	一九三	2. マーガリン	一九七
5. 地球の内部に關する今日の知識	一九四	2. 諾威のアルミニウム	一九七
5. 東部吉林省經濟事情	一九四	2. パーレン群島	一九八
6. 奈良縣に於ける指定史蹟第二冊	一九七	2. 滿洲に於ける獸骨	一九八
6. 有史以前の近江	一九七	3. イラーケ國の油井	一九八
6. 横手町の地理	一九八	3. 正誤(九卷一號八五上段一行)	一九八
1. 英領ギアナ事情	一九九	3. 輪島 嶺	一九九
1. シヤムの樟腦	二〇〇	3. 福州の交通	二〇〇
1. 丹波國綾部及福知山四近の段丘	二〇一	3. 米材の輸入	二〇〇
		3. ルール地方の交通	二〇一
		3. レニングラード港海運の復活	二〇一

3 露國の茶栽培	二四四	5 マルゲイヴ群島	二九〇
3 白耳義領コンゴ―鑛業の發展	二四四	5 世界の小麦主要産出國	二九〇
4 露國のアスベスト	二四四	5 白耳義領コンゴ	二九〇
4 ペリエーの鑛産	二四三	5 養 兎 業	二九三
4 故ナウマン博士の本邦關係著述目録	二四三	5 プラジルに於けるリトワニア植民地	二九三
4 世界石油産額	二四三	6 正誤(九卷四號二四七頁神津氏論文)	目次ノ裏
4 プラジル外國移民數	二四三	6 正誤(九卷三號一九三頁北日本の墜落)	四三三
4 英領モーリシアス島	二四三	6 愛知地理學會	四三八
4 最近世界綿羊數と羊毛産額	二四三	6 福岡地理學會近況	四三八
4 ランカシヤに於ける人絹業の勃興	二四三	6 地理學夏期講習會	四三九
4 スマトラ麻とマニラ麻	二三八	6 河内國孔舍衙の貝塚	四三九
4 アンデス横斷鐵道の電化	二三八	6 日本蜜柑と北滿	四七〇
4 地球學團長崎支部近況	二三八	6 日本と土耳其との貿易	四七〇
4 愛知地理學會創立	二二九	6 長春の日本燈油	四七一
4 正誤(九卷三號一六九蛇石記事)	三三〇	6 本邦産銻鐵詰と英國	四七一
5 正誤(九卷四號)	三三五	6 ナウル島近況	四七三
5 東京高師地理學會會報	三三五	6 英國の主要産業變遷	四七三
5 地球學團岡山支部近況	三三五	6 支那の製鐵業	四七四
5 朝鮮昌城鑛山	三三六	6 アルゼンチン國の統計	四七五
5 南極大陸の地體構造	三三六	6 波斯の農業	四七五
5 滋賀縣陣屋山の石灰臺地	三三七	6 北氷洋航路	四七六
5 太古に於ける綿布の使用	三三八	6 人造絹糸世界産出額	四七六
5 世界紡錘數	三三八	6 島根縣地理學會主催夏期講習會	四七七

質疑應答

1. 蜀行	八四
1. 現在のカレドニア山地(文檢)	八五
1. カレドニア山脈	八六
2. 平太陽日	一六
2. 地理科本試験問題	一五
3. 太陽日記事の訂正	三五
3. 北米合衆國大西洋沿岸平野の三地理區(文檢)	三七
4. 蒙古の羊毛の種類について	三九
4. 銑鐵及粗鋼の世界生産額	三〇
4. アスピーテ式の火山	三〇
5. ミスシッピ河流域について	三九
6. 加奈陀産小麦の世界的地位	四七
6. 蒙古羊毛の種類(第二回)	四七

地球學團新入團員

5. 自昭和二年十二月一日至三年四月一日……五號目次ノ裏

地球

第九卷 第一號

昭和三年一月一日發行

主要目次

圖版 第一版 蘇國ウキットヒール寺院とモアールランド中の遺路	藤田文學
日本住宅の居住地理學的考察 (藤田文學)	文學博士 小川 琢治
士の日本民家史 (一)	文學博士 小川 琢治
北上山地の南端部壯鹿半島の岩石節理の研究 (一)	文學博士 矢部 長克
静岡縣掛川町近傍の地質に就きて (一)	文學博士 檜山 次郎
四國佐川盆地産アンモナイトに就きて	文學士 清水 三郎
若狹海岸一部の隆起現象に就きて	文學士 上治 寅次郎
宍道湖の鹹度問題 (四)	文學士 小牧 實繁
地球軌道の離心率	限 雅 以
北東シベリアに於ける大山脈 (チエルスキー山脈) の	文學士 瀧川 規一
發見 (オプアルチエフ)	文學士 瀧川 規一
西遊夢錄 (四)	文學士 瀧川 規一
石油地質學概要 (十六)	文學士 大村 一藏
摘 錄	
新 著 編 介	
雜 報	
質 疑 應 答	
地球第八卷總目錄	

京 都 帝 國 大 學 內
地 球 學 團

地球第九卷第二號 (昭和三年二月)

豫告

圖版第二版

日本住宅の居住地理學的考察(藤田文學士の日本民家史(二)).....理學博士 小川 琢 治

永同青山地質圖幅を見て沃川系の時代論に及ぶ.....理學士 中村 新 太 郎

静岡縣掛川町近傍の地質に就きて(一).....理學士 横 山 次 郎

宍道湖の鹹度問題(五).....文學士 小 牧 實 繁

日野川下流の變遷.....理學士 石 川 成 章

福岡地方の地理的事實.....金 尾 宗 平

磐城石川附近風土雜記.....菅 谷 泰 昌

西遊夢 錄(五).....文學士 瀧 川 規 一

講 話

石油地質學概要(十七).....理學士 大 村 一 藏

摘 錄

新 著 紹 介

雜 報

質 疑 應 答

地球第九卷第一號 (昭和三年一月)

目次

圖版 第一版 蘇國ウキツトビー寺院とモアーランド中の道路

日本住宅の居住地理學的考察(藤田文學士の日本民家史)(一)……………理學博士 小川 琢治……………一

北上山地の南端部牡鹿半島の岩石節理の研究(一)……………理學博士 矢部 長克……………五

静岡縣掛川町近傍の地質に就きて(一)……………理學士 榎 山 次 郎……………三

四國佐川盆地産アンモナイトに就きて……………理學士 清水 三 郎……………六

若狹灣岸一部の隆起現象に就きて……………理學士 上 治 寅 次 郎……………四

宍道湖の鹹度問題(四)……………文學士 小 牧 實 繁……………四

地球軌道の離心率……………文學士 隈 雅 以……………三

北東シベリアに於ける大山脈(チエルスキー山脈)の發見(オブルチエフ)……………文學士 瀧 川 規 一……………二

西遊夢錄(四)蘇國巡遊……………文學士 瀧 川 規 一……………二

講 話

石油地質學概要(十六)……………理學士 大 村 一 藏……………七〇

摘 錄

○牧野英一、カッタール主義

新著紹介

○構造地質學講話 ○家藏日本地誌目錄

○地理學雜誌第一號

雜 報

○丹波綾部及福知山四近の段丘 ○若狹三方湖畔の天然瓦斯

○支那の製粉業 ○米國冷藏船の東洋來 ○石油の世界産額増加 ○エチオピアと日本綿布 ○モンテヴェイテオ市 ○隧道工事に於ける事故 ○英領ギアナ事情 ○シヤムの樟腦

○質疑應答 ○旅行 ○現在のカレドニア山地に就きて ○カレドニア山脈(文檢)

地球第八卷總目錄

地球圖書の栞 (八)

讀り受けたし

- 1 ○震災豫防調査會報告、第十八號(赤城)、第二十號(八ッ嶽)、第二十七號(日光)第三十一號(高原)、第三十三號(阿蘇火山)、第三十六號(那須)、第四十三號(島々)第四十四號(岩手山)、第四十八號(岩木火山)、第五十六號(新島)、第五十九號(木曾御嶽)、第六十號(栗駒)、第六十二號(駒嶽)、第八十號(櫻島)。
 - 2 ○二十萬分一地質圖、豊橋、足助、名古屋及其等の説明書
 - 3 ○地質學雜誌、第六、七、八卷及第二十三卷。
 - 4 ○地質調査所百萬分一帝國地質説明書。
 - 5 ○地學雜誌、第三十五年第四百十號、同第四百十二號、同第四百十六號、同第四百十七號、第二十六年第三百九號及第三百十號、第二十七年第三百十八號及第三百十九號。
 - 6 ○現代の科學、第四卷第十號(大正五年)、第六卷第三號(大正七年)。
 - 7 ○岡田武松、氣象學講話。
- 右希望者愛知縣額田郡福岡町大字福岡一八

野口喜一

地球前號(第八卷第六號)要目

圖版 第六版 紀伊國瀨岐と武藏國長瀨

直線狀構造線及び地内力効果の綜攬……………

…………… 理學博士 小川 琢 治

擴散による分離沈澱と混合沈澱……………

…………… 理學博士 渡邊萬次郎

安道湖の鹹度問題(二)文學士 小牧實繁

秋田縣長走風穴に就て…………… 荒谷武三郎

極東に於ける鑛物資源と將來の開發……………

…………… 理學士 石川成章

西遊夢錄(三)…………… 文學士 瀧川規一

講話

石油地質學概要(十五)…………… 大村一藏

摘錄

新著紹介

雜誌報

質疑應答

地球學園規約

- 第一條 本學園は地球學園といふ。
- 第二條 本學園は地球學園に關する學術的研究を進め兼て同好の士の親睦をはかるを目的とする。
- 第三條 事務所を京都市白川退分町京都帝國大學地質學教室内に置く。又會員が多い地方には支都を置く事がある。
- 第四條 本學園の事業は次の如くである。
 - ① 雜誌並に圖書の刊行
 - ② 講演並に講習會の開催
- 第五條 本學園は地球學園として一年分六圓又は半年分三圓を發行所へ前納すること。
- 第六條 本學園員になりた人は、住所職業氏名を申込み、同時に地球學園費半分以上を、發行所へ送金する事。同時に、同好の士を脱退しやうとする者は、其の旨を學園に通知すること。

註文規定

- ① 購讀者の御註文及び廣告に關する件は博多成象堂へ御申込下さい。
- ② 本誌の御註文代金郵税共すべて前金にて御送り下され度候。
- ③ 郵券代用にての御註文は、割増に願上候。
- ④ 振替貯金にての御送金は、振替大阪七參參番、東京五貳六〇七番博多成象堂に願上候。
- ⑤ 前金切れの場合に帯封に前金切りの印章捺捺致すべきに付直に御押込下され度候。
- ⑥ 特別請求書及領收書等を要する場合は郵券參錢御送付下され度候。

定價

一册	定價金五十錢	郵税金參錢
六册(前金)	定價金參圓	郵税不申受
十二册(前金)	定價金六圓	郵税不申受

特大號定價の差額は別に申受候

廣告料

一頁 金五十圓

昭和二年五月廿五日印刷納本(第九卷) 定價金五拾錢
昭和三年一月一日發行(第一號)

不許複製
禁轉載

發行所

編輯者 京都帝國大學 地球學園
右代表者 藤田元春
發行所 博多 久吉
印刷者 井下一郎
印刷所 大阪西區阿波羅中道三丁目四番地
大阪市西區阿波羅中道三丁目四番地
井下一郎

大阪市南區大寶寺町西之丁貳拾貳番地

博多成象堂

電話特南壹七七番

發賣所

博多成象堂

振替(東京五貳六〇七番 大阪七參參番)

所 捌 賣

(東京) 東隆堂 東海堂 東館
(大阪) 北隆館 參文社
(京都) 寶文館 川瀨書社
(神戶) 共盛社 大盛社
(名古屋) マガジン 川瀨書社 星野書店

東京市神田區錦町三丁目拾貳番地
大阪市南區大寶寺町西之丁貳拾貳番地

CHIKYU THE GLOBE

Vol. IX. No. I.

January, 1928.

PLATE 1. Whitby Abbey and Moorland Track, Scotland.

Habitations in Japan; a critical note on Mr. M. Fujita's History of Japanese Houses. (1)	
By T. Ogawa, <i>R. H.</i> ,	1
A Study on the Joint of the Rocks in the Ojika Peninsula, South Corner of the Kitakami Mountain-Land. (1)	
By N. Yabe, <i>R. H.</i> ,	15
On the Geology near Kakegawa, Shizuoka Prefecture. (1)	
By J. Makiyama, <i>R. S.</i> ,	23
On the Ammonites from the Sakawa Basin, Tosa Province.	
By S. Shimizu,	33
Upheaval in a Part of the Coast in Wakasa Province.	
By T. Ueji, <i>R. S.</i> ,	42
On the Salinity of Lake Shinji in the Past (4).	
By S. Komaki, <i>B. S.</i> ,	46
Eccentricity of the Earth's Orbit.	
By G. Kuma,	53
Obruchev's Discovery of a great Range in North East Siberia.	56
Life of the Highlanders in the Scotland. (4)	
By K. Takikawa, <i>B. S.</i> ,	62
Lecture on Oil Geology (16).	
By I. Ōmura, <i>R. S.</i> ,	70
Abstract—New Books—Geographical Notes—Inquiries.	

Chikyū Gakudan

Kyōto Imperial University